

問1 メスシリンダーに水を入れたとき、液面は少し曲がっていますが、目もりを合わせる正しい位置は液面のどの部分ですか。

問2 ろ過をして、溶けていない粒を取り除いたあとの液体のことを何といいますか。

問3 水50gに食塩が最大で18gとけると、水の量を100gに増やすと、食塩は最大で何gとけますか。

問4 物質が水にすべて溶けて、全体が一様にすき通った液体のことを何といいますか。

問5 温度を上げてつくったミョウバンすいようえきの水溶液を冷やすと、なぜミョウバンのつぶを取り出すことができるのですか。

問6 上皿てんびんを使ってものの重さをはかるときに、皿にのせて使う決まった重さのおもりを何といいますか。

問7 水にものをとかしたとき、とけたものは水の中でどのような状態になっていますか。

問8 ろ紙をろうとにはめて使うとき、ろうとにぴったりとはりつかせるためにはどうしますか。

問9 メスシリンダーで液体の体積えきたい たいせきを正しく読み取るただしくよみとるとき、目もりに対する正しい目の位置め たいするただしいめのいちは何なんですか。

問10 水よう液には、どのような特徴とくちょうがありますか。

問11 決まった量の水に食塩などを入れていくとき、それ以上はとけなくなる限界の量のことを何といいますか。

問12 ろ過をしたあとに集まる「ろ液」は、どのような特徴とくちょうをもつ液体ですか。

問13 水にとかした食塩を、水からとり出すには、どのような方法を使えばよいですか。

問14 ものを水に入れてよくかき混ぜたとき、とけたものが液全体に均一に広がり、すき通る状態のことを何といいますか。

問15 決まった量の水に食塩などをとかしていくとき、これ以上とけなくなる限界のことを何といいますか。

問16 水溶液すいようえきを冷やすことで固体として取り出すことができるのは、どのような性質がある物質ですか。

## 答え合わせ・解説 No.1

問1	答え 液面のへこんだところの面	メスシリンダーの目もりを読むときは、液面のへこんだところの面を、真横から見て読みます。
問2	答え ろ液	ろ過をして、溶けていない粒を取り除いたあとの液体のことを「ろ液」といいます。
問3	答え 36g	水の量が50gから100gへと2倍に増えているため、とける食塩の量も18gの2倍である36gになります。
問4	答え 水溶液	物質が水にすべて溶けて、全体が一樣にすき通った液体のことを水溶液 <small>すいようえき</small> といえます。
問5	答え 温度が下がると、水にとけることができるミョウバンの量が減るから	温度を下げると、水にとけることができるミョウバンの量が減るため、とけることができなくなった分のつぶが再び現れます。
問6	答え 分銅	上皿てんびんで重さをはかるときに使う、決まった重さのおもりを分銅 <small>ぶんどう</small> といえます。
問7	答え 目に見えないくらい <small>の</small> 小さなつぶになって、液全体にいちように広がっている。	水にとけたものは、目に見えないほど小さなつぶになり、液全体にむらなく均一に広がります。
問8	答え 水でぬらす。	ろ紙には、水でぬらすとろうとにびったりとはりつく性質があります。
問9	答え 真横から見る位置	メスシリンダーの目もりを読むときは、液面のへこんだところの面を、真横から見て読みます。
問10	答え すき通っている	水よう液は、ものが水に完全にとけているため、すき通っているという特徴 <small>とくちょう</small> があります。
問11	答え とける量の限度	決まった量の水にとけるものの量には限りがあり、この限界の量を「とける量の限度」といいます。
問12	答え 溶けていない粒 <small>の</small> が取り除かれている。	ろ液は、ろ過によって溶けていない粒 <small>つぶ</small> を取り除かれたあとの液体です。
問13	答え 水を蒸発 <small>じょうぱつ</small> させて水の量を減らす。	食塩は、水を蒸発 <small>じょうぱつ</small> させて水の量を減らすことで、溶けきれなくなったものを取り出すことができます。
問14	答え 水にとける状態	ものを水に入れてかき混ぜたとき、とけたものが液全体に均一に広がり、すき通る状態のことを「水にとける状態」といいます。
問15	答え とける量の限度	決まった量の水にとけるものの量には限度があり、これ以上とけない限界のことを「とける量の限度」といいます。
問16	答え 温度が下がると溶ける量が大きく減る性質	ホウ酸やミョウバンのように、温度が下がると水に溶ける量が大きく減る性質を持つ物質は、水溶液を冷やすことで固体として取り出すことができます。

問1 ろ過という方法を使って、液体と固体に分けることができるのは、どのようなものですか。

問2 物質が水にすべて溶けて、全体が一様にすき通った液体のことを何といいますか。

問3 水溶液を冷やすことで固体として取り出すことができるのは、どのような性質がある物質ですか。

問4 水平でしっかりした台の上に置き、皿に何も載せないときに針が左右に同じ幅で振れるように調節して、ものの重さをはかる道具は何ですか。

問5 ホウ酸を限界まで溶かした水溶液を冷やすと、ホウ酸が粒となって出てくるのはなぜですか。

問6 水に溶けている物質を取り出したときに見られる、物質の種類によって決まっている規則正しい形を何といいますか。

問7 水に食塩をこれ以上溶けないところまで溶かしました。この水溶液を温めて温度を高くしたとき、食塩はさらにたくさん溶けますか。

問8 水に溶けていない粒と水を分けるために使う、目に見えない小さな穴がたくさん開いている紙の名前は何かですか。

問9 液体の体積を正確にはかるために使う、目盛りのついた細長い器具は何ですか。

問10 電子てんびんを使ってものの重さを正しくはかるとき、何も載せていないときの表示を何gに合わせますか。

問11 水に溶けている食塩のように、温度が変わっても溶ける量がほとんど変わらないものを、固体として取り出すにはどのような方法を使えばよいですか。

問12 水50gに食塩が最大で18gとけると、水の量を100gに増やすと、食塩は最大で何gとけますか。

問13 水の温度を高くしたときに、水にとける量が非常に大きく増える特徴をもつ物質はどれですか。

問14 理科の実験で、液体をかき混ぜたり、ろ過をするときに液を伝わらせて静かに注いだりするために使う道具は何ですか。

問15 ろ過したあとの液（ろ液）に、温度を変えずに同じ物質をさらに加えると、その物質はどうなりますか。

問16 分銅をあつかうとき、手で直接さわらずにピンセットを使って持たなければならないのはなぜですか。

## 答え合わせ・解説 No.2

問1	答え 液に溶けていない粒が混ざっているもの	ろ過は、液に溶けていない粒をろ紙でこし分ける方法なので、液に溶けていない粒が混ざっているものを分けることができます。
問2	答え 水溶液	物質が水にすべて溶けて、全体が一樣にすき通った液体のことを水溶液といいます。
問3	答え 温度が下がると溶ける量が大きく減る性質	ホウ酸やミョウバンのように、温度が下がると水に溶ける量が大きく減る性質を持つ物質は、水溶液を冷やすことで固体として取り出すことができます。
問4	答え 上皿てんびん	水平でしっかりした台の上で使い、皿に何も載せないときに針が左右同じ幅で振れるように調節して使う道具は、上皿てんびんです。
問5	答え 温度が下がった分だけ、ホウ酸が水に溶けきれなくなるから。	水溶液の温度が下がると、温度が下がった分だけ溶けきれなくなったホウ酸が粒となって出てきます。
問6	答え 結晶の形	水に溶けている物質を再び取り出したときに見られる、規則正しい特徴的な形のことを「結晶の形」といいます。
問7	答え 温度が高くなっても溶ける量はほとんど変わらないので、さらにたくさん溶けることはない。	食塩は水の温度が高くなっても溶ける量がほとんど変わらないため、温めてもさらにたくさん溶けることはありません。
問8	答え ろ紙	水に溶けていない粒を通さず、水だけを通すための小さな穴がたくさん開いている紙を「ろ紙」といいます。
問9	答え メスシリンダー	液体の体積を正確にはかるために使う器具はメスシリンダーです。
問10	答え 0g	電子てんびんを使うときは、正しく重さをはかるために、何も載せていないときの表示を「0g」にします。
問11	答え 水を蒸発させる	温度が変わっても溶ける量がほとんど変わらない食塩などは、水を蒸発させることで固体として取り出すことができます。
問12	答え 36g	水の量が50gから100gへと2倍に増えているため、とける食塩の量も18gの2倍である36gになります。
問13	答え ミョウバン	ミョウバンは温度が高くなるととける量が非常に大きく増えます。食塩は温度が高くなってもとける量はあまり変わりません。
問14	答え ガラス棒	液体をかき混ぜたり、ろ過のときに液を伝わらせて静かに注いだりするために使う棒をガラス棒といいます。
問15	答え まったく溶けない	ろ過したあとのろ液には、すでに物質が溶ける限度の量まで溶けているため、温度を変えずに同じ物質をさらに加えても溶けません。
問16	答え 手のあぶら（皮脂）などがついて、重さが変わるのを防ぐため	手で直接さわると皮脂（あぶら）などがついて重さが変わってしまうため、必ずピンセットを使って持ちます。

- 問1 100gの水に、20gの砂糖<sup>さとう</sup>をすべてと<sup>さとうみず</sup>かして砂糖水<sup>さとうみず</sup>を作りました。できあがった砂糖水の重さは何gですか。
- 問2 水に食塩を限界までと<sup>さとうみず</sup>かしたあと、さらに食塩をと<sup>さとうみず</sup>かすためには、どのような方法をとればよいですか。
- 問3 水の量を2倍、3倍と増やしていくと、そこにとけるものの量はどのように変化しますか。
- 問4 水の温度を変えたとき、一定量の水にとけるものの量はどうなりますか。
- 問5 ものを水に入れてよくかき混ぜたとき、とけたものが液全体に均一に広がり、すき通る状態のことを何といいますか。
- 問6 理科の実験で、液体をかき混ぜたり、ろ過をするときに液を伝わらせて静かに注いだりするために使う道具は何ですか。
- 問7 メスシリンダーで液体の体積をはかるとき、目もりはどの方向から見なければなりませんか。
- 問8 電子てんびんを使ってものの重さを正しくはかるとき、何も載せていないときの表示を何gに合わせますか。
- 問9 100gの水に、10gの砂糖<sup>さとう</sup>をすべて溶<sup>と</sup>かして砂糖水<sup>さとうすい</sup>を作りました。この砂糖水の重さは何gになりますか。
- 問10 メスシリンダーで液体<sup>えきたい</sup>の体積<sup>たいせき</sup>をはかるとき、目もりは液面<sup>えきめん</sup>のどの部分<sup>ぶぶん</sup>に合わせ<sup>あわ</sup>て読み取り<sup>よみとり</sup>ますか。
- 問11 「食塩<sup>と</sup>が水に溶<sup>すいようえき</sup>けた水溶液」のことを何といいますか。
- 問12 水の温度を高くしても、水にとける量がほとんど変化しない物質はどれですか。
- 問13 食塩やミョウバンなどを水にと<sup>と</sup>かしていくとき、一定量の水にとけるものの量にはどのようなきまりがありますか。
- 問14 水に溶<sup>と</sup>けている物質を取り出したときに見られる、物質の種類によって決まっている規則正しい形を何といいますか。
- 問15 ホウ酸を限界まで溶<sup>と</sup>かした水溶液<sup>すいようえき</sup>から、溶けきれなくなったホウ酸<sup>と</sup>を粒<sup>つぶ</sup>として取り出すには、水溶液をどのようにすればよいですか。
- 問16 水の温度を高くしたとき、食塩が水にとける量はどのように変化しますか。

## 答え合わせ・解説 No.3

問1	答え 120g	水よう液の重さは、「水の重さ」と「とかしたものの重さ」をたした重さになるため、100gと20gをたして120gになります。
問2	答え 水の量を増やす	水の量を増やすと、ものが水にとける量も増えます。そのため、さらに食塩をとかしたいときは、水の量を増やすのが正しい方法です。
問3	答え とける量が多くなる	水の量を増やすと、そこにとけるものの量も多くなります。水の量ととける量にはこのような関係があります。
問4	答え 水の温度によって、とける量はちがいます。	一定量の水にとけるものの量は、水の温度によって変化します。
問5	答え 水にとける状態	ものを水に入れてかき混ぜたとき、とけたものが液全体に均一に広がり、すき通る状態のことを「水にとける状態」といいます。
問6	答え ガラス棒	液体をかき混ぜたり、ろ過のときに液を伝わらせて静かに注いだりするために使う棒を「ガラス棒」といいます。
問7	答え 真横から	メスシリンダーの目もりは、液面の高さに合わせて真横から見るのが正しい読み方です。
問8	答え 0g	電子てんびんを使うときは、正しく重さをはかるために、何も載せていないときの表示を「0g」にします。
問9	答え 110g	物を水に溶かす前の水の重さ（100g）と溶かす物の重さ（10g）を足したものは、溶かした後の全体の重さと等しくなるため、110gになります。
問10	答え 液面の高さ	メスシリンダーの目もりは、真横から見ながら、液面の高さに合わせて読み取ります。
問11	答え 食塩水	食塩が水に溶けた水溶液のことを食塩水といいます。
問12	答え 食塩	食塩は、水の温度を上げて水にとける量がほとんど変わらないという特徴を持っています。
問13	答え とける量には限界（かぎり）がある。	食塩やミョウバンなど、ものが一定量の水にとける量には限りがあります。そのため、どれだけかき混ぜても無限にとけるわけではありません。
問14	答え 結晶の形	水に溶けている物質を再び取り出したときに見られる、規則正しい特徴的な形のことを「結晶の形」といいます。
問15	答え 水溶液を冷やす	ホウ酸を限界まで溶かした水溶液は、冷やすことで溶けきれなくなったホウ酸を粒として取り出すことができます。
問16	答え わずかしか増えない	食塩は、水の温度が上がっても、水にとける量はわずかしか増えないという特徴があります。

問1 水に溶<sup>と</sup>けている物質を取り出したときに見られる、物質の種類によって決まっている規則正しい形を何といいますか。

問2 水の温度が同じとき、水の量を2倍に増やすと、そこに溶<sup>と</sup>かすことができるものの量はどのように変化しますか。

問3 食塩を水に溶<sup>と</sup>かすとき、水の温度を高くすると、食塩が水に溶<sup>と</sup>ける量はどのように変化しますか。

問4 食塩を水に完全にとかした液体のことを何といいますか。

問5 メスシリンダーで液体の体積をはかるとき、目もりはどの方向から見なければなりませんか。

問6 ろ紙をろうとにはめて使うとき、ろうとにぴったりとはりつかせるためにはどうしますか。

問7 同じ温度で、同じ量の水に、ちがう種類のものをと<sup>と</sup>かすとき、とける量はどうなりますか。

問8 水に混ざっている、液に溶<sup>と</sup>けていない粒<sup>つぶ</sup>を、ろ紙を使ってこし分けることで、液体と固体に取り出す方法を何といいますか。

問9 水溶液の水を蒸<sup>じょうはつ</sup>発させたときなどに出てくる、規則正しい形をした粒<sup>つぶ</sup>のことを何といいますか。

問10 決まった量の水に食塩などを入れていくとき、それ以上はとけなくなる限界の量のことを何といいますか。

問11 水を蒸<sup>じょうはつ</sup>発させて取り出す方法は、どのような性質をもつものを取り出すのに適していますか。

問12 食塩のように、水の温度が変化しても溶<sup>と</sup>ける限度の量があまり変わらないものを、水の中から取り出すのに適した方法はどれですか。

問13 メスシリンダーを水平なところに置いて使うのは、何をするためですか。

問14 ものが水にとけたとき、液の様子はどのようになりますか。

問15 ホウ酸を限界まで溶<sup>と</sup>かした水溶液<sup>すいようえき</sup>を冷やすと、ホウ酸が粒<sup>つぶ</sup>となって出てくるのはなぜですか。

問16 水の温度を高くしたときに、水にとける量が大きく増える性質をもつ物質はどれですか。

## 答え合わせ・解説 No.4

問1	<b>答え</b> けっしょう 結晶の形	水に溶けている物質を再び取り出したときに見られる、規則正しい特徴的な形のことを「結晶の形」といいます。
問2	<b>答え</b> 2倍になる	水の温度が同じであれば、水の量が2倍になると、そこに溶かすことができるものの量も2倍になります。
問3	<b>答え</b> ほとんど変わらない。	食塩は、水の温度が高くなっても、水に溶ける量はほとんど変わりません。
問4	<b>答え</b> 食塩水	食塩を水にとかした水よう液のことを食塩水といいます。
問5	<b>答え</b> 真横から	メスシリンダーの目もりは、液面の高さに合わせて真横から見るのが正しい読み方です。
問6	<b>答え</b> 水でぬらす。	ろ紙には、水でぬらすとろうとにびったりとはりつく性質があります。
問7	<b>答え</b> とかすものの種類によって、とける量はちがいます。	一定量の水にとけるものの量は、とかすものの種類によってそれぞれ異なります。
問8	<b>答え</b> ろ過	液に溶けていない粒をろ紙でこし分けて、液体と固体に分ける方法を「ろ過」といいます。
問9	<b>答え</b> けっしょう 結晶	水溶液の水を蒸発させたときなどに出てくる、規則正しい形をした粒のことを結晶といいます。
問10	<b>答え</b> とける量の限度	決まった量の水にとけるものの量には限りがあり、この限界の量を「とける量の限度」といいます。
問11	<b>答え</b> 水の温度が変化しても、溶ける限度の量があまり変わらないもの	食塩のように、水の温度が変わっても溶ける限度の量があまり変わらないものは、水を蒸発させて取り出すのが適しています。
問12	<b>答え</b> 水を蒸発させて取り出す方法	水の温度が変わっても溶ける限度の量があまり変わらないものは、水を蒸発させて減らすことで取り出すことができます。
問13	<b>答え</b> 液体の体積を正しくはかるため	メスシリンダーが傾いていると液面が斜めになり目盛りが正しく読めなくなるため、体積を正しくはかるために水平な場所に置きます。
問14	<b>答え</b> 液全体に均一に広がり、すき通る。	ものが水にとけると、とけたものは液全体に均一に広がり、すき通った状態になります。時間がたってもにごっている場合は、水にとけたとは言えません。
問15	<b>答え</b> 温度が下がった分だけ、ホウ酸が水に溶けきれなくなるから。	水溶液の温度が下がると、温度が下がった分だけ溶けきれなくなったホウ酸が粒となって出てきます。
問16	<b>答え</b> ホウ酸	ホウ酸は、水の温度が高くなると、水にとける量が大きく増えるという特徴があります。

問1 水とに溶けている物質を取り出したときに見られる、物質の種類によって決まっている規則正しい形を何といいますか。

問2 温度を上げてつくったミョウバンすいようえきの水溶液を冷やすと、なぜミョウバンのつぶを取り出すことができるのですか。

問3 メスシリンダーえきたい たいせきで液体の体積をはかるとき、目もりめ えきめんは液面ぶぶんのどの部分あわに合わせて読み取りよみとりますか。

問4 上皿てんびんを使ってものの重さをはかるときに、皿めにのせて使う決まった重さのおもりを何といいますか。

問5 水に食塩を限界までとがしたあと、さらに食塩をとがすためには、どのような方法をとればよいですか。

問6 メスシリンダーに水を入れたとき、液面は少し曲がっていますが、目もりを合わせる正しい位置は液面のどの部分ですか。

問7 水とに溶けていない粒つぶと水を分けるために使う、目に見えない小さな穴あながたくさん開いている紙の名前は何かですか。

問8 メスシリンダーえきたい たいせきで液体の体積を正しく読み取るただしくよみとるとき、目もりめに対する正しい目の位置たいするただしいめのいちは何なんてですか。

問9 水を蒸発じょうはつさせることで固体ととして取り出す方法は、溶けているもののどのような性質に適していますか。

問10 決まった量の水に食塩をたくさん入れてよくかき混ぜましたが、どうしても食塩がとけ残ってしまいました。このようになるのはなぜですか。

問11 水にものをとがすとき、水の量を2倍に増やすと、ものが水にとける量はどのように変わりますか。

問12 水とに溶けている食塩のように、温度が変わっても溶ける量とがほとんど変わらないものを、固体として取り出すにはどのような方法を使えばよいですか。

問13 水にものを完全にとがしたあと、長い時間そのまま置いておくと、とけたものはどのように変わりますか。

問14 メスシリンダーで液体の体積をはかるとき、目もりはどの方向から見なければなりませんか。

問15 水にとける量の限度よりも多くの食塩を水に入れたとき、水の中の様子はどのように変わりますか。

問16 メスシリンダーを水平なところに置いて使うのは、何をするためですか。

## 答え合わせ・解説 No.5

問1	<b>答え</b> けっしょう 結晶の形	水に溶けている物質を再び取り出したときに見られる、規則正しい特徴的な形のことを「結晶の形」といいます。
問2	<b>答え</b> 温度が下がると、水にとけることができるミョウバンの量が減るから	温度を下げると、水にとけることができるミョウバンの量が減るため、とけることができなくなった分のつぶが再び現れます。
問3	<b>答え</b> 液面の高さ	メスシリンダーの目もりは、真横から見ながら、液面の高さに合わせて読み取ります。
問4	<b>答え</b> 分銅	上皿てんびんで重さをはかるときに使う、決まった重さのおもりを分銅といいます。
問5	<b>答え</b> 水の量を増やす	水の量を増やすと、ものが水にとける量も増えます。そのため、さらに食塩をとかしたいときは、水の量を増やすのが正しい方法です。
問6	<b>答え</b> 液面のへこんだところの面	メスシリンダーの目もりを読むときは、液面のへこんだところの面を、真横から見て読みます。
問7	<b>答え</b> ろ紙	水に溶けていない粒を通さず、水だけを通すための小さな穴がたくさん開いている紙を「ろ紙」といいます。
問8	<b>答え</b> 真横から見る位置	メスシリンダーの目もりを読むときは、液面のへこんだところの面を、真横から見て読みます。
問9	<b>答え</b> 温度が変わっても溶ける量がほとんど変わらない性質	温度が変わっても溶ける量がほとんど変わらないものは、冷やしても出てこないため、水を蒸発させて取り出します。
問10	<b>答え</b> 決まった量の水にとけるものの量には限度があるから。	決まった量の水にとけるものの量には限度があるため、その限度を超えて食塩を入れると、どれだけかき混ぜてもとけ残ってしまいます。
問11	<b>答え</b> とける量も増える	水の量を増やすと、ものが水にとける量も増えます。そのため、水の量を2倍にすると、とける量も増えることになります。
問12	<b>答え</b> 水を蒸発させる	温度が変わっても溶ける量がほとんど変わらない食塩などは、水を蒸発させることで固体として取り出すことができます。
問13	<b>答え</b> 時間がたっても、液全体にいちように広がったままである。	水に完全にとけたものは、時間がたっても底に沈んだり浮いたりせず、液全体に広がったままの状態が続きます。
問14	<b>答え</b> 真横から	メスシリンダーの目もりは、液面の高さに合わせて真横から見るのが正しい読み方です。
問15	<b>答え</b> とけきれなかった食塩が、とけ残りとして出てきます。	とける量の限度を超えて多くのものを入れると、それ以上はとけずに「とけ残り」として底にたまります。
問16	<b>答え</b> 液体の体積を正しくはかるため	メスシリンダーが傾いていると液面が斜めになり目盛りが正しく読めなくなるため、体積を正しくはかるために水平な場所に置きます。

問1 水にものがとけて、全体に広がり、すき通った状態になっている液のことを何といいますか。

問2 水の温度を変えたとき、一定量の水にとけるものの量はどうなりますか。

問3 ろ過したあとの液（ろ液）に、温度を変えずに同じ物質をさらに加えても溶けないのはなぜですか。

問4 温度を上げてつくったミョウバンすいようえきの水溶液を冷やすと、なぜミョウバンのつぶを取り出すことができるのですか。

問5 ホウ酸を限界まで溶かした水溶液すいようえきを冷やすと、ホウ酸が粒つぶとなって出てくるのはなぜですか。

問6 水を蒸発じょうはつさせて取り出す方法は、どのような性質をもつものを取り出すのに適していますか。

問7 液体の体積を正確にはかるために使う、目盛りめもりのついた細長い器具は何ですか。

問8 水に溶けている食塩のように、温度が変わっても溶ける量がほとんど変わらないものを、固体として取り出すにはどのような方法を使えばよいですか。

問9 ホウ酸を限界まで溶かした水溶液すいようえきから、溶けきれなくなったホウ酸を粒つぶとして取り出すには、水溶液すいようえきをどのようにすればよいですか。

問10 食塩を水に完全にとかした液体のことを何といいますか。

問11 水の温度が同じとき、50gの水に食塩が最大18gと溶けました。水の量を100gに増やすと、食塩は最大で何g溶かすことができますか。

問12 ものが水にとけた液のことを何といいますか。

問13 ろ過をするときに、液をガラス棒ぼうに伝わらせて注ぐのは、どのようにするためですか。

問14 水の温度を高くしたときに、水にとける量が大きく増える性質をもつ物質はどれですか。

問15 ろ過をして、溶けていない粒つぶを取り除いたあとの液体のことを何といいますか。

問16 ものの重さをはかるために使う道具で、使う前に何も載せていないときの表示を「0g」にするものはどれですか。

## 答え合わせ・解説 No.6

問1	答え 水よう液	水にものがとけて全体に広がり、すき通った液のことを「水よう液」といいます。
問2	答え 水の温度によって、とける量はちがいます。	一定量の水にとけるものの量は、水の温度によって変化します。
問3	答え すでに物質が溶ける限度の量まで溶けているから	ろ液には、すでにその温度で溶ける限界の量まで物質が溶けているため、同じ物質をそれ以上溶かすことはできません。
問4	答え 温度が下がると、水にとけることができるミョウバンの量が減るから	温度を下げると、水にとけることができるミョウバンの量が減るため、とけることができなくなった分のつぶが再び現れます。
問5	答え 温度が下がった分だけ、ホウ酸が水に溶けきれなくなるから。	水溶液の温度が下がると、温度が下がった分だけ溶けきれなくなったホウ酸が粒となって出てきます。
問6	答え 水の温度が変化しても、溶ける限度の量があまり変わらないもの	食塩のように、水の温度が変わっても溶ける限度の量があまり変わらないものは、水を蒸発させて取り出すのが適しています。
問7	答え メスシリンダー	液体の体積を正確にはかるために使う器具はメスシリンダーです。
問8	答え 水を蒸発させる	温度が変わっても溶ける量がほとんど変わらない食塩などは、水を蒸発させることで固体として取り出すことができます。
問9	答え 水溶液を冷やす	ホウ酸を限界まで溶かした水溶液は、冷やすことで溶けきれなくなったホウ酸を粒として取り出すことができます。
問10	答え 食塩水	食塩を水にとかした水よう液のことを食塩水といいます。
問11	答え 36g	水の量が50gから100gへと2倍になっているため、溶かすことができる食塩の量も18gの2倍である36gになります。
問12	答え 水よう液	ものが水にとけた液のことを「水よう液」といいます。
問13	答え 液を静かに注ぐため	ろ過をするときにガラス棒に液を伝わらせるのは、液を静かに注ぐためです。
問14	答え ホウ酸	ホウ酸は、水の温度が高くなると、水にとける量が大きく増えるという特徴があります。
問15	答え ろ液	ろ過をして、溶けていない粒を取り除いたあとの液体のことを「ろ液」といいます。
問16	答え 電子てんびん	ものの重さをはかる道具を電子てんびんといいます。使うときは、何も載せていないときの表示を「0g」に合わせます。